

**第1回 神戸市役所本庁舎2号館再整備事業者選定委員会
議事概要**

◆第1回委員会の概要

(1) 日 時：令和2年7月16日（木） 10時～12時

(2) 会議形式：WEB会議

(3) 選定委員：

嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科 教授（委員長）
奥田 浩美	㈱ウィズグループ 代表取締役社長
栗山 尚子	神戸大学大学院工学研究科 准教授
清水 裕之	名古屋大学 名誉教授
武田 重昭	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
谷澤 実佐子	谷澤公認会計士事務所 代表（欠席）

(4) 議 事：

①神戸市役所本庁舎2号館再整備事業の概要について

②庁舎のあり方について

- ・市の新型コロナウイルスへの対応状況、働き方改革の取組状況の紹介
- ・意見交換 等

③市民利用空間のあり方について

- ・学生ワークショップ、市民向けシンポジウムでの意見の紹介
- ・意見交換 等

(5) 主な意見要旨

①庁舎のあり方について

- ・今後、職員のリモートワーク環境が整うことで、新しいオフィスの役割が求められるだろう。
- ・各種申請等、市民サービスの観点に関しても、ICT化をどのように進めていくか、市の方針が必要である。
- ・セカンドプレイスの機能を拡張させて、サードプレイスとしての役割も担う2.5プレイスのようなオフィスのあり方も考えられる。
- ・目指すべきは仕事の効率化ではなくクリエイティビティであり、行政職員の働き方がかっこよく、憧れの仕事と思われるような働き方が大切である。
- ・庁舎という場があることで、市民や市職員が何かを企てる力を誘発するきっかけになると良い。

- ・生産性の向上に結び付くことを目指すべきであり、職種や業種ごとの働き方に関する業務特性を把握した上で、計画に反映することが大事である。
- ・機械換気と自然換気の両立は難しいが、市の考え方を事業者に示せるよう、可視化なども含めて検討してほしい。
- ・非常時のことも想定すると、時間や使い方を固定しないフレキシブルな空間が重要である。
- ・アフターコロナ社会を考えると音楽ホール等との連携など、全体計画の中でどう複合化、多重化できるかが重要である。

②市民利用空間のあり方について

- ・駅前とウォーターフロントとの中継地点として目的地化することが重要である。
- ・えき~まち空間や雲井通、東遊園地等、都心の他事業との機能分担の整理が必要である。
- ・市内にあるコワーキングスペース等との役割分担が必要である。
- ・200人規模のカンファレンスルームがあると良い。
- ・これまで進めてきた神戸の魅力は人であるという政策の成果を体感できる BE KOBE センターのような機能や、神戸の都心再整備を含め、市民が自分の街について考え、誇りや自負を持てるようなシビックプライドセンターのような機能が必要である。
- ・他機能と連続した空間のつながりとして考え、どのようなアクティビティが持ち込めるかという検討も行うべきである。
- ・どの程度多目的に使ってもらうかは重要で、ある程度幅を持った使い方に対応することが望ましいが、バックヤードなどが逆に使いづらくなならないように配慮も必要である。
- ・世界中にいる神戸ファンとつながっていく機能があると、神戸の街自体の底力が上がると思う。
- ・ナイトタイムエコノミーを活性化させる機能を持てると良い。
- ・ソフトを含めたコミュニケーションの場とすべきである。
- ・将来の運営を主体的に担う市民を育てていくためのプログラムをすぐに始めることにより、施設の開設当初から市民による運営が始められ、持続可能なマネジメントが図れるような、事前の取り組みができると良い。
- ・目指すあり方に対応した規模や運営者の要件を検討する必要がある。